◎令和５年度　第２回　相模原中等教育学校　学校運営協議会

１　各部会

〇しっかり学び　ゆっくり探る部会

＜質疑応答＞

Ｑ　５年次で２単位にした理由は何か。

Ａ　短期で間延びせずどんどん進められるが一長一短はある。

Ｑ　ルーブリックは評価の観点は作成しているのか。生徒に示しているのか。また、生徒が評価を見て振り返るようなしくみは構築してあるか。

Ａ　作成してある。振り返りは最後の発表会の後に書くことになっている。

Ｑ　最後の発表時ではなく毎回振り返りを書かせるべきである。担当教員によるリフレクションはどうなっているのか。生徒の活動サポート体制は。

Ａ　担当職員で意見交換や情報共有をしている。研究開発Ｇで進捗状況は把握している。

Ｑ　生徒および教員が見られる記録については、紙ベースかオンラインか。進捗状況を生徒が記録し、生徒も教員も見られるようにするべきではないか。２コマ連続の授業にできないのか。

Ａ　時間割編成上大変難しい。

Ｑ　学年の美術(鎌倉彫)と、英語(鎌倉遠足)を合わせてどのように実施したのか。

Ａ　学年なので分からない。

＜ご意見＞

・ＬＨＲを他の曜日に動かすことはできないのか。100分の方が生徒は絶対にやり易いはずなので検討してもらいたい。

・小学校での教科横断的学習は大変進んでいる。同じ時期に行った方が効果的であるという授業内容を色分けする等して一覧表を分かりやすくすると良い。

・これからの人材は起業家マインドを持ってスタートアップを動かしていく人材がメインとなる。調査の結果によると、高校時代の主要５教科の成績との相関関係はほとんどないと言われているし、得点が高かった生徒がこの方面では伸びていない。教科横断的な学習を行うことで、学習内容と生活との関連性を示し、勉強に対しての動機付けや意欲の高揚につなげていくべきである。そして他の学校に発信してもらいたい。

〇じっくり育て部会

＜質疑応答＞

Ｑ　サポートドックの結果で面談が必要となったからといって、必ずしも面談する必要はないのでは。

Ａ　意外な生徒が悩みを抱えているなど、見落としていた部分を拾うことができた。また、生徒の状態を知る手立てが増えたと認識している。

Ｑ　委員会を前期生、後期生で分けずに合同で行うことを検討している。また、前期生は部活動について、原則加入することになっている。この2点についてご意見をいただきたい。

Ａ　委員会について、まずは現在の分かれた形のまま交流させてみるのも良い。部

活動については、学校生活を知るという意味で初めは原則加入が良いと思う。ただし、部活自体に合う、合わないがあると思うので、例えば半年経ったら辞めても良い、とするのはどうだろうか。

＜ご意見＞

・サポートドックの結果に縛られ過ぎなくてもよいのではないか。専門家に任せきりにせず、教員がしっかりと見守ることが大事。

２　学校評価部会

＜質疑応答＞

Ｑ　指導と評価の一体化は毎時間行っているのか。

Ａ　各単元で行い、年３回程度の実施を目安にしている。

Ｑ　サポートドックはどういう仕組みで行われるのか。また、スクールカウンセラー（以下、ＳＣ）とスクールソーシャルワーカー（以下、ＳＳＷ）　はどの程度の頻度で出勤しているか。

Ａ　神奈川県が作成したアンケートを、クラスで実施した。必要に応じて声掛けをし、ＳＣ・ＳＳＷに繋いだ。ＳＣ・ＳＳＷはそれぞれ週２日、曜日が被らないように出勤している。また、スクールメンターが週１日出勤するため、平日は毎日誰か１人が出勤している。

Ｑ　学年が変わる際に、教員間での引継ぎはしっかりと行われているのか。

Ａ　普段は、月末の学年会で共有するとともに、情報共有シートに記録している。教員は誰でもアクセスして確認できるようになっている。それら情報は期ごとに保管し、引継ぎ表等を用いて引き継がれているか確認している。

Ｑ　不祥事防止や対応について、具体的な手立てがあれば教えていただきたい。

Ａ　個人情報の取り扱いを紙からデータに変えて、だれがいつアクセスしたのかを管理できるようにするとよい。

Ａ　早期の段階で誠意を見せることが重要である。また、謝罪を続けるしかない。

＜ご意見＞

・サポートドックなどのアンケートに頼りすぎると、生徒の様子をキャッチするアンテナが鈍くなるのではないかという懸念もある。機械的に処理するのではなく、教員一人ひとりが地道にやっていくことが重要ではないか。

・アンケートには正直に書きたがらない児童生徒もいるので、しっかりと見取ることが重要である。

・指導と評価の一体化は、何で見るのか、どこで見るのかが重要である。また、教科間の関りを探して繋げることも重要である。